

シーギリヤ宮殿(シギリヤ)(世界遺産)(スリランカの中部州のマータレー)

シーギリヤ（シンハラ語: සීගිරිය, タミル語: சிதிரியா, 英語: Sigiriya）は、スリランカの中部州のマータレーにある遺跡である。シギリヤとも。

概要

シーギリヤの遺跡は、5世紀にカッサパ1世（英語版）（在位 477～495 年）によって建造された、要塞化した岩上の王宮跡と、それを取り囲む水路、庭園、貯蔵施設などの都市遺構からなる。岩山の中腹には『シーギリヤ・レディ』として知られるフレスコの女性像が描かれている。当初は 500 体ともいわれたが、風化が進み現在は 18 体だけが残る。

シーギリヤロックは火道内のマグマが硬化して出来た岩頸で、形状は楕円柱、標高約 370m、岩頸そのものの高さは約 195m、全方位が切り立った崖になっている。

歴史

シンハラ王朝の 5 世紀、ダートゥセーナ（英語版）王の息子カッサパ1世は、王の甥であり軍司令官でもあったミガラミガラの支援を得てクーデターを起こし、477 年には父親から王権を奪取する。しかし平民出身の母親を持つカッサパ王は、王族出身の母を持つ弟モッガラーナに王位を奪還されることを恐れ、長らく首都であったアヌラダプラを離れ、より安全なシーギリヤへと遷都した。カッサパが在位にあった 477 年から 495 年の間、シーギリヤは複雑な市街と防衛機能を併せ持つ都として発展し、即位から 7 年後にはシーギリヤロックの頂上に王宮が完成する。

一方、兄カッサパからの難を逃れていたモッガラーナは、亡命先の南インドから軍隊を引き連れ兄に戦いを仕掛ける。当初はカッサパ王が優勢であったものの後に劣勢に転じ、観念した王は喉を掻き切り自害、495 年、シーギリヤは陥落する。王位に就いたモッガラーナはシーギリヤを仏教僧に寄進し、再び都をアヌラダプラへと移した。シーギリヤは 13 世紀から 14 世紀頃まで修道院として存続するが、徐々に衰退。その後は 16 世紀から 17 世紀にキャンディ王国がこの地を分営として利用するまでの間、記録は残されておらず、また同王国の衰退の後にも再び放棄された。

建設から 1400 年の後、イギリス統治下の 1875 年に、イギリス人によって岩山に描かれたフレスコ画である“シーギリヤ・レディ”が発見された。

世界遺産

古都シーギリヤは、1982 年、世界遺産（文化遺産）に登録された。

登録基準

この世界遺産は世界遺産登録基準における以下の基準を満たしたと見なされ、登録がなされた（以下の基準は世界遺産センター公表の登録基準からの翻訳、引用である）。

- (2) ある期間を通じてまたはある文化圏において、建築、技術、記念碑的芸術、都市計画、景観デザインの発展に関し、人類の価値の重要な交流を示すもの。
- (3) 現存するまたは消滅した文化的伝統または文明の、唯一のまたは少なくとも稀な証拠。
- (4) 人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式、建築物群、技術の集積または景観の優れた例。

その他

入場料は、スリランカ国民 50 スリランカ・ルピー、外国人 4,650 スリランカ・ルピーとあまりの価格差別で外国人観光客の響響を買っている。なお、居住ビザを持つ外国人でも一旦 4,650 スリランカ・ルピーを支払い、書類とチケット半券をコロomboの本部事務所まで持っていけば、入場料の一部還付を受けられる。アーサー・C・クラークの SF 小説『楽園の泉（英語版）』には、シーギリヤをモデルとした遺跡「ヤッカガラ」が登場し、作中で重要な役割を果たしている。

